

漂着物学会誌投稿規程

令和5年11月18日改正

1. 投稿資格

投稿者の少なくとも1人は、漂着物学会（以下、本会という）会員（個人会員、団体会員）でなければならない。ただし、本会が依頼した場合は、この限りではない。

2. 投稿原稿の区分

投稿原稿は、漂着物を扱った自然科学・社会科学・人文科学およびこれらの学際的諸分野に関する研究成果で、原則として未発表のものとし、その区分および内容などは次のとおりとする。

- 原著論文：独創性があり、理論的または実証的な研究であって、論文として完結した体裁を整えているもの
- 総説：ある特定の分野に関して、先行する研究等を幅広く包括的に調査し、結果を比較検討したもの
- 短報：理論的または実証的な研究であって、原則として刷り上がり2ページ以内のもの
- 記録：漂着の記録として残しておくべき事象をまとめたもので、原則として刷り上がり1ページ以内のもの
- 雑録：その他の報告

3. 論文の登載

原稿の投稿は随時受け付けるが、8月末日までに受付けた投稿原稿は査読・審査の後、登載決定を行い、原則として12月末発行予定の本学会誌および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルプラットフォーム「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）に登載される。

4. 投稿方法

投稿者は、投稿原稿（本文、図、表）および必要事項を記入した投稿原稿送付票（本会ウェブサイト及び本学会誌に記載）のワードファイルをE-mail（添付ファイルのファイルサイズが5MBを超える場合は、外部ストレージサービスを利用）で下記の本委員会に送付する。なお郵送の場合は、原稿一式および送付票を下記の本委員会に送付する。

〒099-2493 網走市八坂196 東京農業大学生物産業学部

漂着物学会編集委員長 園田 武 宛

t3sonoda@nodai.ac.jp

5. 査読

5.1 投稿原稿に対し、漂着物学会誌編集委員会（以下、本委員会という）は専門家による査読を行って登載の可否を決定する。査読に当たって本委員会は投稿者に対して問合せ、または内容の修正を求めることができる。

5.2 原稿に関する照会、または修正を依頼してから本委員会が指定した期日以内に著者から回答がない場合には、本委員会は査読を打ち切る。

6. 受理後の手続き

本委員会で登載が可とされた原稿（受理原稿）は、本文、図（写真含む、以下同じ）、表を以下のデータフォーマットで作成保存し、それら一式を E-mail（添付ファイルのファイルサイズが 5MB を超える場合は、外部ストレージサービスを利用）にて本委員会まで送付すること。

本文：マイクロソフトワードファイルまたはテキストファイル

図：jpg, png, gif ファイル

表：マイクロソフトエクセルファイル、マイクロソフトワードファイル、テキストファイル

7. 投稿原稿の書き方

7.1 投稿原稿は、十分に推敲されたものでなければならない。

7.2 投稿原稿は和文・英文のいずれでもよい。

7.3 投稿原稿は、11 ポイント以上のフォントサイズで A4 サイズの用紙に 1 行 35 字、30 行程度で作成する。原稿の全てのページ下部中央にページ番号を入れる。また、1 ページ目から最終ページまでの連続した行番号を入れる。

7.4 学名、欧文は半角文字で記し、句読点はそれぞれピリオッド（.）カンマ（,）とする。数字は、1 ケタは全角、2 ケタ以上は半角文字とし、単位は原則として S I 単位を用いる。（例）50 mm, 5 ml（数字 1 ケタが全角ならば 5 m）

7.5 原稿は、和文のタイトル・氏名の下に、英文タイトル、氏名、住所、要約または Abstract, Key words, 本文、謝辞、引用文献とする。なお Key words は、原稿内容を適切に表現する英単語を 5 つ以内選び、アルファベット順に付ける。筆者の連絡先を日本語と英語で脚注に付記する。ただし、短報と雑録および記録は、Abstract, Key words は不要である。なお、短報と雑録は英文の Summary を本文の最後につけてもよい。

7.6 図（写真を含む）はそのまま製版できる状態に作成する。写真は白黒、カラーいづれでもよいが、印刷は白黒となる。

7.7 図（写真を含む）と表は 1 種類ずつ A4 用紙の別書き、それぞれ通し番号（図 1、表 1 など）をつける。図のタイトルと説明は別紙に一括して書く。図および写真は印刷される大きさの 1.5 倍程度とするのが望ましい。また、折り込みとなるような大きさのものは避ける。

7.8 引用文献は、本文中に引用した文献のみをリストし、和文、欧文を含めて、筆者名のアルファベット順に配列する。

7.9 引用文献には次の形式で記載する（□は半角スペース、「.:」は半角とする）。

【論文の場合】筆者名（複数の場合・で区切る）□発行年.□表題.□掲載雑誌名□巻（ゴシック体）:□ページ.

（例）鈴木明彦・圓谷昂史 2021. 北海道焼尻島の海岸へ打ち上げられた火山岩礫の穿孔痕. 漂着物学会誌 24: 57-61.

（例）: Nakanishi, H. 1983. Drift fruits and seeds on the coast of the Yaeyama Islands,

southernmost of Japan. Jour. Phytogeo. & Tax. 31: 22-30.

【単行本の場合】 筆者名 □ 発行年. □ 書名. □ p. ページ数 (単ページの場合 p., 複数ページの場合 pp.) , □ 出版社名 (発行所) , □ 発行地.

(例) : 石井 忠 1999. 新編漂着物事典. 380pp., 海鳥社, 福岡.

【単行本の一部を引用する場合】 筆者名 □ 発行年. □ 引用する章や節のタイトル. □ 編著者名. □ 書名. □ p. ページ数 (単ページの場合 p., 複数ページの場合 pp.) , □ 出版社名 (発行所) , □ 発行地.

(例) : 清野聡子 2017. 日本の海岸の成り立ちと現状. 須田有輔編著. 砂浜海岸の自然と保全. pp.205-217., 生物研究社, 東京.

【ウェブサイトの場合】 ウェブサイト (管理者) 名. □ URL □ (参照した年月日)

(例) : Beachcomber Shige's WebPage 海豆 Sea-beans.

<http://beachcomberjp.jimdofree.com/seeds-fruits/> (2022年2月閲覧)

(例) : 北海道中央水産試験場ホームページ 余市前浜水温情報.

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousuion/index.html>
(2022年2月28日閲覧)

7.10 引用文献の本文中の書き方は以下の通りとする.

(例) : 最初に松本 (1900) が記録したが, その後各地から報告されてきた (石井 1991, 藤枝ら 1998; 鈴木・圓谷 2000, 2001; Michida et al. 2001, Suzuki 2010). Beachcomber Shige's WebPage (2022) ではその詳細が述べられている.

8. 登載料等

8.1 登載料は, 6 ページまでは無料とする. これを超えた場合は, 超えた部分 1 ページにつき 10,000 円を投稿者負担とする. また, カラー印刷の場合は, 1 ページにつき 20,000 円の追加とする.

8.2 論文の筆頭著者には, 登載する論文の pdf ファイルを無償で贈呈する.

8.3 pdf ファイルとは別に論文等の抜刷を希望する場合は有料とし, その費用は筆者負担とする. なお, 別刷りは 50 部単位で事前に受け付ける.

9. 著作権

査読・審査を経て学会誌に登載された著作物の著作権は本会に帰属 (譲渡) する. なお, 著者自らが, 著作物の全文または一部を複製・翻訳・翻案などの形で自らの用途のために利用する場合, 本会はその利用を妨げない. 第三者から, 著作物の全文または一部の複製利用 (翻訳として利用する場合を含む) の申し込みを受けたときには, 本会は特に不適切とみなされる場合を除き, これを許諾することができる. この場合, 本会は著者に著作物利用の概要を通知する.

※ 受付番号 _____

原稿送付状

■ 投稿原稿の種類 (○をつける) (論文・総説・短報・雑録)

■ 著者名

■ 表題

■ 英文表題

■ 原稿枚数 (本文 : _____ 枚, 表 : _____ 枚, 図 : _____ 枚)

■ 発送年月日 (_____ 年 _____ 月 _____ 日) 希望別刷数 _____ 刷

※ 受付年月日 (_____ 年 _____ 月 _____ 日)

■ 連絡・校正送付先 (住所・氏名)

氏名

〒

TEL : _____ FAX : _____

E-mail : _____

※ 査読者 _____ ※ 発送年月日 _____ ※ 受取年月日 _____

(本状を原稿送付時にお送りください。※編集事務局で記入)